

【ポスター発表】

他者から社会福祉はどうみられているか

～イメージカラーから読み解く～

○ 東海学院大学 三橋 真人(004598)

[キーワード] 社会福祉イメージ、カラーイメージ、他者

1. 研究目的

人間の感覚機能には、視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚といった、いわゆる五感と呼ばれるものがあり、特に人間は視覚から多くの情報を得るといわれている¹。同時に色から何らかの影響を受ける。本論文では他者から社会福祉はどうみられているかをイメージカラーから読み解くことで、無意識に福祉従事者が他者に影響を与えていること、福祉従事者が他者から求められていることが明らかになるのではないかと考えた。

2. 研究の視点および方法

3. 対象者:A大学 社会福祉学科以外の学科 1～4年生(n=265)。

3.1. 調査期間:2013(平成25)年6月11日～14日

3.2. 質問項目:「社会福祉からイメージする色は何色ですか。回答は1つにしてください」

3.3. 調査手続き:質問項目が書かれた質問紙を協力学生に配布した。

3.4. 倫理的配慮:1.研究目的を説明した上で、回答を断ることができることを口頭で説明した。2.アンケートの提出をもって同意とした。3.調査の参加の有無が成績とは関係しないことを口頭で説明した。4.個人が特定を避けるため無記名とした。5.データは本研究以外に使用しない旨を口頭で約束した。6.データは研究発表終了後、シュレッダーで廃棄することを口頭で説明した。7.学会発表後、協力者に研究結果を報告することを約束した。

4. 研究結果

アンケートの結果、社会福祉に対するイメージで最も多かったのが、白色で16%、続いて橙色で15%、桃色12%、黄色10%、緑色9%、水色7%、ベージュ6%、青色6%、茶色4%、赤色と肌色は3%、灰色・黄緑色2%、紫色・虹色1%、黒色1%、金色0%という結果を得ることができた。

5. 考察

5.1. 色が人の心理と行動に与える影響

私たちの生活は色に囲まれているが、なぜ一つ一つにその色が使われているのか考えた事はあるだろうか。色は私たちが思っている以上に人の心の働きに影響を与えているとわれている。

5.1.1. 色はどんな影響力があるか

【心理的な影響】暗記力、回想力、認識力を増す。また、色によって簡単に理解・学習・誘導ができる。

【生理的な影響】神経に影響を与える。研究によって、明るい赤は交感神経系に刺激を与える

ので血圧をあげるともいわれている。逆に、青や緑はリラックスさせる生理作用がある。【感情的な影響】私達の感情や気分は色に大きく影響されている。例えば、黄色を見ると人は明るい気分になる。観葉植物など緑を見ると人は安心する。【文化的な影響】文化は人に基本的な価値観や感覚を与える。よって、文化によって色が人に与える印象も異なる。例えば、西洋文化では黒は死を象徴するのに対して東洋文化では白が死を象徴する。この様に文化はデザインに影響を与え、さらにユーザーの文化によっても受け取り方が異なる。

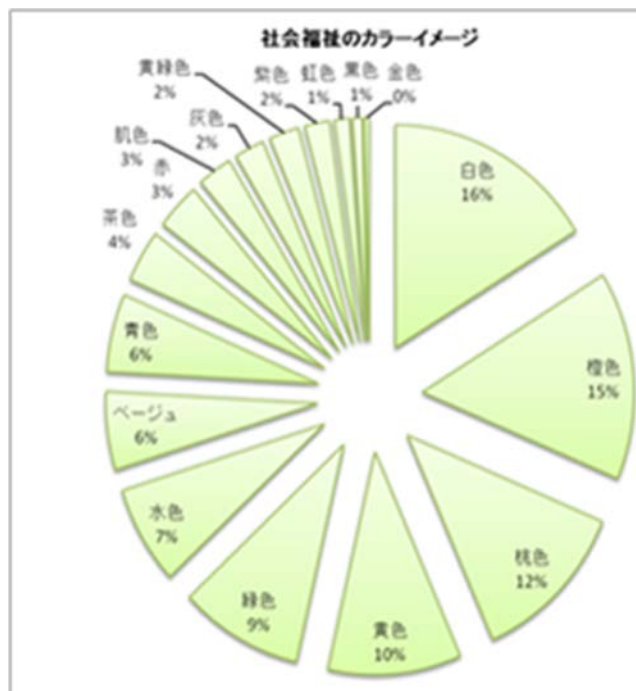


図.1 社会福祉からイメージ色

5.1.2. それぞれの色の働きと色彩心理

色は国際的に同じだが、文化によって心理的に受ける影響は多少異なる。また、生理や心理作用を共に把握する事が色を上手く使うコツとなる。

【赤】警戒心、注意力を喚起し、人間の感情的興奮や刺激をもたらす。赤は色の中で最も長い波長を持ち、交感神経に刺激を与え体温・血圧・脈をあげる。**【橙】**楽天的な印象をあたえ、陽気にみえる。消化、新陳代謝をよくする作用があるため、食欲を増進させる。血管や自律神経を刺激し身体を活動的にする。**【黄】**明るさや希望を与える。運動神経を活性化させる。脳の活性化がよくなり頭の回転が早くなる。集中力がアップする。**【緑】**情緒の安定、安心感の増加。身体を癒す色。筋肉の緊張をほぐし、リラックスさせてくれる。また、筋肉や骨その他組織の細胞を作る力を促進したり、緩和効果があるので血圧を下げる。**【青】**爽快感、冷静を与える。鎮静作用があり、精神的に落ち着かせる作用がある。体温の低下、痛みの緩和などの作用もある。**【紫】**高貴さ優雅さを表す。集中力アップ、鎮静効果。リンパ管や心筋、運動神経の働きを抑制する。**【黒】**力強さ、高級感を与える。相手を威圧し、力を象徴する。**【白】**純潔さや純真さを表す。過去を清算してリセットする色。

以上のような特徴を踏まえると今回の結果で社会福祉は白色であると答えた回答者が多かったことから、社会福祉に対して、純潔や純真といったイメージを抱いている者が多いということが予想できる。攻撃的な色としても認識できる赤を選んだ人が少なかったのも、社会福祉＝非攻撃的であるイメージが強く持たれているからであろう。また色がミンチされるとき、視覚からの情報は生理的反応だけでなく、「暖かい感じ」「大きな感じ」というような知覚感情を喚起することから、白に対して透明感がある感じや自然体というイメージがあるということも言われているⁱⁱ。

5.1.3. 色で人は誘導されるか

色彩は様々な印象、感情、錯覚を与えるが、これらの作用は部屋の空間から広告やファッションなどあらゆるところで使われている。心理や生理的に影響を与えるので言葉で伝えられるのとは違い、自分が感じた印象として素直に受け止められる事が多い。また人間関係や自己の向上にも色は関係していて身につけている色によって人に与える印象も変わる。

一番身近な例で言えば道や室内にあるサインである。信号機は青、黄、赤の色が変わる事によって人を上手く誘導することができている。また飛行場などサインがないと多くの人が混乱する場所などではサインが目立つように黄色と黒の組み合わせを使って目立つように工夫している。また初対面の人に会う時は、服を選ぶ時に色に気をつけて選ぶと効果的である。例えば、黒色の服を着ているとクールで知的に見える。重圧感や自立している印象を与えるので交渉などの場面では有効な色である。逆に白は、誠実さや上品な印象を与えるので初対面の人に会うときなどは好印象を与える効果的な色である。青は真面目さや落ち着いた印象を与えるので面接の時などに適した色である。調査結果を見ても、社会福祉に対して白を選んだものが多かったのは、誠実な人に適した職種であるというイメージが定着していることが考える。また水色と回答したものが多かったのも、白と同様に真面目な仕事であるという印象があるからであろう。

6. 最後に

色はただの色として認識されている事が多いが、人の心や気持ちに大きく影響している。色相の特徴を知ってから改めて商品やロゴなどを見ると、理由があってその色が選ばれている事がわかる。またその日の気分自分が選んだ服も、その時求めている感情に合った色を自然に選んでいたりもする。色は文字とは違い見て感じるものなので、自分でも気づかないところで様々な影響をうけている可能性がある。社会福祉に対する色のイメージについて調査を行ったが、近年では「色彩治療法」と呼ばれる色彩学と心理学を基盤とした「癒しの科学」がカラーセラピーとして登場している。例えば病院や老人ホームなどで、色彩を使って治療効果を高める場所もありⁱⁱⁱ、社会福祉学においてもこのような色との関わりは重要になってくる。こうしたことから社会福祉のイメージを色を使って表現していくことには意味のあることである。

参考文献

ⁱ 深澤奏子・高田谷久美子・佐藤都也子,健康な成人が色彩にもつイメージと生理的反応,山梨看護ジャーナル VOL 8 NO.1,23-27,2009

ⁱⁱ深澤奏子・高田谷久美子・佐藤都也子,健康な成人が色彩にもつイメージと生理的反応,山梨看護ジャーナル VOL 8 NO.1,26,2009

ⁱⁱⁱ 井上沙江子,カラーセラピーの効果に関する考察,大阪大学経営情報学部紀要,2002